



## 寺院名物シリーズ④ 鹿足組 妙壽寺

拙寺、妙壽寺は江戸末期の火災により本堂を消失し、およそ180年の永きにわたり、本堂と庫裏が同一の仮本堂にて法灯を継承してまいりました。

その間、幾多の困難を乗り越え、門信徒のお支えのもと、この度、この令和の年に新たな本堂をお迎えすることができました。南無阿彌陀仏(住職・村上 元)

# 山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動  
発行 山陰教区委員会  
〒690-0002 松江市大正町4-43-1 本願寺山陰教堂  
TEL 0852-4747  
FAX 0852-4747  
利信 8351

## 過疎の現実に向き合って

寺院振興対策委員会  
過疎対応担当委員

つき 月 洞 昇 道

自坊は浜田市三隅町の漁師町にあります。かつては漁に関わる人々の生活が地域を支えていましたが、島根県内の漁獲高の減少による漁港統合・再編以降、漁師だった門徒さんも姿を消し、地域の人口構成も大きく変化しました。それに伴い、寺と地域社会の関係性も、従来の形を維持することが難しくなっています。

先日、無住寺院や活動停止状態に近い寺院を視察する機会がありました。中には、寺院機能が失われただけでなく、存在そのものの痕跡がほとんど残っていない場所もありました。そこに至るまでの過程は、一つひとつの判断の先送りや、現実を直視しきれないまま時間が経過した結果であることを考えると、「手遅れになる前に対応する」という視点の重要性を強く感じます。

私自身の家庭について言えば、子どもたちはそれぞれ別の分野へ進み、今のところ寺を継ぐとはしていません。後継に道筋をつけられなかったことは、父親、また住職として不徳の致すところであります。将

来的には他の寺院に支援を依頼しなければならなくなる可能性も現実的に考えています。この問題は決して特異な事例ではなく、同様の状況にある寺院は少なくないと思われる。

過疎が進行する地域では、「何とか現状維持を続ける」ことだけでは立ち行かなくなる段階が確実に訪れます。その前段階で相談し合える関係、必要な支援を具体化できる仕組みが不可欠です。寺院がそれぞれ孤立したまま対応するのではなく、現状を共有し、率直に課題を出し合い、現実的な選択肢を検討できる教区であることが求められています。

過疎最先端の地で起きていることは、やがて他地域でも現実化する可能性があります。『まだ大丈夫』と考えている間に、対応が困難な段階に入る場合もあります。取り返しのつかなくなる前に、声を上げる側にも、声を受け止める側にも、具体的な行動が必要です。その共通理解を、これからは共有していきたいと考えています。



## ビハラー山陰総会・研修会

期 日 7月8日 (火)  
会 場 山陰教堂  
教化センター 研修室  
参加者 15名

総会では、令和6年度の事業報告・決算報告・監査報告、令和7年度の事業計画案・予算案について審議され、議決されました。会員の減少傾向が強まるなか、今後の活動の方向性や新しく会員になっていただくための方策などについても話し合われました。

研修会は、ビハラー山陰副会長の朽島宏樹師(益田組専光寺)に、「ビハラーとの出会いとその活動について」と題し、お話いただきました。

ビハラー活動としてがん患者との交流を始めたきっかけや、音楽をとおしての交流などについてお話いただき、誰でも個人としてビハラー活動はできること、決して難しいことではないことなど、参加者の皆さまにも身近に感じる



ことができた時間となりました。また、参加者全員が話し合う時間を設け、日頃の活動やビハラーに対する思いを語っていただき、非常に有意義な研修会となりました。

## フードバンク活動報告

(2021年5月～2025年11月)

ご協力いただいた団体・個人から  
478件(延べ数)

届けていただいた食品・日用品の  
数3700個

お米約1700kg

お菓子約1600食

インスタント食品約1480食

缶詰約350個

調味料400個

飲料水約700本

その他日用品(洗剤・タオル等)

これまで72回に亘り山陰両県の社会福祉協議会や各団体へお渡ししました。今後も継続して実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

○届けていただきたい食品

お米・レトルト食品・インスタント食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・わかめ・昆布・粉末食品(お茶漬けの素・味噌汁・ふりかけ等)・調味料(醤油・砂糖・麵つゆ・塩・味噌・酢・食用油等)・菓子など

※お米・お菓子・レトルト食品・カップ麺が喜ばれたとご連絡をいただきました。

○注意いただきたい事項

・賞味期限が明記されており、1ヶ月以上あるもの(社協によっては3ヶ月以上)

・未開封で中身が出ていないもの  
・常温保存が可能なもの

サステナブルノベルティ  
100%天然素材

超吸水 & 速乾

片手でキュッとしぼれる

煮沸消毒・洗濯機OK

水切りマットにも

ギフトにおすすめ! 北欧生まれのエコふきん

F7060 スポンジワイプ

井筒オリジナル  
「白象模様」

サイズ: 20×17.2×0.3cm  
色: 白地+ペパーミントグリーン  
素材: セルロース & コットン



井筒法衣店

〒600-8468  
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)  
Tel 075-351-1234 Fax 075-341-7905  
☎ 0120-075-720

オンラインショップはこちらから →



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店

寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社

古田た佛具製作所

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609  
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836  
フリーダイヤル 0120-178-413  
フリーファックス 0120-343-036



# 同朋社会研修会

大田東組

正蔵坊

菅

原

憲

7月9日(水)、同朋社会研修会を出雲市民会館会議室で開催し、85名の僧侶・門信徒の方々に参加いただきました。

今年が戦後80年にあたり、戦没者追悼法要も併せて勤まり、農利信教務所長の調声で勤行、窪田英俊布教団副団長にご法話をいただきました。

研修会のテーマは、戦後80年ということもあり「非戦・平和」がテーマ。ご講師は、絵本作家・詩人のアーサー・ビナード氏。「『やばっ』この『平和』って本物の平和？」と知らなかった僕らの戦争」と題しお話をいただきました。

アーサー・ビナード氏は1967年アメリカ・ミシガン州で生まれ、子どもの頃、原爆は「戦争を終わらせるもの」として教育されました。大学卒業と同時に来日。5年後友人に誘われ、初めて広島を訪れ平和記念資料館で被爆者の体験を聞き「ピカドン」という言葉を知って見方が変わったとのこと。被爆者や遺構・遺品と向き合い、原爆を投下した側ではなく、被爆者目線で紙芝居や絵本を作り、講演されています。この

度も、時にユーモアを交え、ピリ辛な語り口で戦争の現状を語ってくださいました。

原爆投下で戦争が終わったという風に理解されていますが、実は、アメリカ側の辻褄合わせであり、第二次世界大戦がはじまろうとしている時、すでにアメリカは「マンハッタン計画」(原爆開発・製造計画)を進めており、核という凄惨な武器をもつて世界に君臨したかったのが実情であるのだと。広島に落とされたウラン型は既に開発されていたそうですが、長崎に落とされたプルトニウム型は製造に時間がかかったため、8月になったそうです。それまで戦争を終わらせないため、3月の「東京大空襲」では大打撃を与えず(8万人の方が犠牲にはなっている)、目的は、あくまで広島と長崎(当初の目標は北九州市小倉)の原爆投下であったそうです。戦時中の戦意高揚のために作られた紙芝居も実演してもらいました。

アメリカ人のアーサーさんが原爆や戦争のことを掘り下げて見つけているのに、私たち日本人が知らない

ことがたくさんあり、メディアの一方的な情報に頼らず、「無知は暴走する権力者だけが豊かになる社会です。」のアーサーさんの言葉のごとく自分の目を、耳を大きく開けて、真実はどこにあるのか、自分で見極め行動に移すことが、未来の世代に対する責任ではないかと感じた研修会でした。



## エコキャップ収集運動にご協力ください

山陰教区では、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の取り組みの一環として、「エコキャップ収集運動」を実施しています。

「エコキャップ収集運動」はペットボトルのキャップをリサイクルメーカーに売却した代金で、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動です。教務所には12月までに、約490kgご協力いただきました。

※お持ちいただくキャップは、必ず洗い、飲料や汚れを落としてください。

※リサイクル対象はペットボトルのキャップのみです。





# 仏教婦人会連盟

## 初心者のための浄土真宗 (次世代育成研修会)

期 日 7月23日(水)

会 場 山陰教堂教化センター

研修室

参加者 26名

これまでは、「若婦人聞法のつどい」として「初心者のための浄土真宗」を開催していました。

年齢や経験に関わらず、多くの方に浄土真宗のみ教えをわかりやすく学んでいただくことを目的に、今年度から、「次世代育成研修会」として開催することといたしました。

このたびは、「敬いと声を形に表す」と題し、山陰教区勤式指導員の小原 静伍 師にお話いただきました。家庭のお仏壇のお飾りや作法、お勤めの唱え方や意味について丁寧に説明いただきました。

「参加してはじめて知ることが多く、よかった」「参加者同士でも教え合いながら

楽しく参加できた」との感想もいただきました。また、「浄土真宗のみ教えについて教えていただきたい」とのお声もいただきました。

今後も、どなたでも気軽に参加いただける研修会を企画してまいりますので、どうぞご参加ください。



## 門徒推進員連絡協議会総会・研修会

神門組 乗光寺 田中貴和

7月26日(土)、山陰教区門徒推進

員連絡協議会総会・研修会に初めて出席しました。研修の講師は出雲組 覚専寺住職 佐々木 俊教師。講題は「門推の自覚と役割」でした。私は、10年前中央教修を受け、「資格より自覚だ!」と激励をうけましたが、総体的には楽しい3泊4日を過ごしてまいりました。教修を受けるきっかけとなったのは父が病氣療養中のときでした。私の仕事が閑期の時に趣味のスケッチのため、近隣にドライブに連れて行っていました。ある時に、「今日は天気もよろしいですが何処へいきましようか?」と問うたところ、父は「そうよのう?」そろそろお浄土へでも行ってみるか」との答え。私は「お浄土といってもそう簡単には行けません、ましてや日帰りではむりでしょう。それに私は国際免許証は持っていますが、お浄土までの車の免許証は持っておりません」の答えに対し、「そうか?」ところで本願寺に『門徒推進員』制度というものがあるそうだが知っているか?」「知りません、また、何を



するものですか?」「知らん。ご院家さんに聞けばわかるからその門徒推進員になれ」という経緯で早速ご住職に申込書と説明書をいただき、後日、中央教修へ。自覚のないまま10年。今日のお話のなかの『経教鏡如』でした。



# 全国寺族青年軟式野球大会に参加して

鳥取伯耆組 香寶寺 上杉信成

9月4日(木)に、京都の山城総合運動公園太陽が丘球場にて、「第46回全国寺族青年軟式野球大会」が開催され、山陰教区寺族野球部も50代のベテランから学生の若手までが参加いたしました。

中、熱中症に気を付けながら体力勝負の大会となりました。

初戦は、宮崎教区・オーシャンズと対戦し、ベテランの奮起と若手の活躍で打線が爆発、10対5で勝利。数年ぶりの初戦突破となりました。

2回戦はベスト8をかけて、長野教区・長野サンガと対戦しました。長野サンガは、若手中心のチーム

で、初戦で優勝候補のチームを破るなど勢いがあり、その勢いに負けじと奮闘しましたが、2対10で完敗。ベスト8進出を逃しましたが、熱中症や怪我をすることもなく、最後まで楽しい野球をすることができました。

寺族野球は、ただ野球をするだけでなく、教区内のつながりを深める大切な場となっております。

数年前から、山陰教区出身の学生の参加があり、教区の次世代を担う若手と交流を深めました。

私自身も、学生時代に寺族野球に声をかけていただき、教区内の方々

との関わりができました。そのおかげで大学を卒業して山陰に戻ったときに、すんなりと教区内の活動に参加することができました。

また、教区内の諸先輩方から多くのお育てをいただきました。私自身も、教区内の架け橋となり、若手育成の一助になればと思っております。

山陰教区寺族野球部は、教区内のつながりを大切に活動しておりますので、野球が苦手でも参加してみたい方、また、次世代の若手で紹介したい方がおられましたら、教務所の寺族野球部担当までご一報ください。

## 僧侶研修会

邑智西組

浄泉寺

朝枝三暁

9月5日(金) 出雲市民会館301

会議室に於いて、令和7年度山陰教区僧侶研修会が開催され、教区内各地からスタッフ含め68名、オンライン9名の参加がありました。午前10時から開会式、引き続き研修会が3時半まで実施されました。講師は武田一真和上(安芸教区 龍仙寺)をお迎えし「浄土の真宗―法然聖人から親鸞聖人へ―」と題して、法然聖人から親鸞聖人へ継承されたご法義を『西方指南抄』をとおしてお話いただきました。

和上は著書に「西方指南抄講讃―

親鸞聖人が仰いだ法然のことば―」

を出版されており、ご自身が研究されたことを懇切丁寧にお話くださいました。

親鸞聖人に、法然聖人の教えへの深い敬愛と、その教えを未来に伝えたいという強い思いがあったことを示され、また、この時期には

念仏の解釈をめぐってさまざまな異義が生じていたこともあり、親鸞聖人が法然聖人の真意を伝えるためこの本を残されたことを強く感じたことでした。

『西方指南抄』という書物は「浄土真宗聖典(注釈版)」には収録されておらず、馴染みの薄い書物

かもしれませんが、現代語訳も出版されており、読ませていただきたいと感じました。

後半は勤式講習会があり、教区勤式指導員の小原 静伍 師から「正信偈」の行譜の指導がありました。

全日程を終えて改めて背筋の伸びる心持ちでした。それは、開会式の教務所長の挨拶にて、先般より行われている「得度考査」の話をされ「受

講された大学生が一生懸命学習されている姿に、今自分は得度を受けた時のように学習に向かうことができているのだろうか、もしかしたら『得

度考査』が始まったのは私たちのせいでありましょうか」とおっしゃったことが胸に響いたからです。日々

に追われ、今日できることも明日に延ばしている私であります。僧侶研

修会という学びの場を与えてくださったことに感謝申しあげます。





## 若寺族婦人研修会

期 日 9月6日(土)  
会 場 ラピタウエディングパレス  
(出雲市)  
参加者 58名



今年度の若寺族婦人研修会は、神門組寺族婦人会の皆さまに企画・準備いただき、58名に参加いただきました。

ご講師に、前田 純代 師(安芸教区 広陵西組 善法寺坊守)をお迎えし、「あなたは何色の花ですか？」と題してお話いただきました。

ご講師の前田 師は、『中国新聞』や本願寺出版社発行の『大乘』など多くの誌面で文章を書いておられます。結婚を機に僧侶になられ、現在は坊守として多方において活躍されておられます。

ご自身の経験のなかで苦労したこと、ありがたかったことなどをお話され、参加者からは、「共感できた」「講師と同じ悩みを持っていたことがわかり、気が楽になった」などの感想をいただきました。

特に、「坊守という言葉には特定の役割があるのではない、気負わずあなた自身がそのままでいいことをやればよい」とのお言葉には、日ごろ、坊守としてどのように活動していけばよいのかと悩みを持っていた多くの参加者にとって、今後の方向性を見出すことができたのではないかと感じました。

## 第4連区青年布教使研修会

鹿足組 誓立寺 朋<sup>とも</sup> 澤<sup>さわ</sup> 融<sup>ゆう</sup> 智<sup>ち</sup>

10月1日・2日に愛媛県のホテルマイステイズ松山を会場として第4連区青年布教使研修会が開催され、私も参加させていただきました。例年、第4連区青年布教使研修会では初日に布教実演があり、翌日には研修会が開かれます。布教実演では毎年各教区の青年布教使の方々がご法話をされ、今年山陰教区からは大田東組の西原 由規 師がご出講されました。トップバッターの大役を務められ、仏縁にであえたことをよるこばせていただきました。また夜には懇親会が開かれ、他教区の方々と語り合いながら交流をし、仲を深めることができましたこともまたうれしいことでありました。

2日目には伯水 永雄 師から「過去帳又はこれに類する帳簿の取り扱い基準」について、また義本弘導師から「布教使の作法・心構えについて」ご講義いただきました。義本師は布教使養成の伝道院で指導をされていたご経歴があります。ご本人も



また布教使として全国各地で布教をされておられます。山陰教区にも度々こられていらっしゃるようです。ご講師の義本師の「布教使の作法・心構えについて」の講義では、ご自身の経験の中でのさまざまな体験談を踏まえてお話をくださいました。講義を聞かせていただきながら、布教の現場のみならず、そこに向かうまでもさまざまなことを予想しながら対応することの大切さ、そして難しさを感じました。自分ならハプニングにあつたらどうするだろう、と考えてみますと、焦って何もしないかもしれない、と思います。しかしそういった中で対応していくことの重要性・判断することの大切さを改めて学ばせていただきました。その根底にはご法座に布教使として

呼ばれるということの責任感、ご法座を大切にされている気持ちがあると感じました。一布教使としての心構えを義本師の体験の中からお聞かせいただきました。



## オンライン仏事研修会

10月6日(月)、山陰教堂教化センター研修室において、オンライン仏事に興味のある教区内僧侶を対象とした、「オンライン仏事研修会」を開催しました。「バリアフリーとしてのオンライン仏事」をテーマに、実践運動オンライン担当担当長の兜坂彰英師(鳥取伯耆組妙寂寺)と、副担当長の菅原大空師(大田西組西楽寺)のお二人が講師を務められ、オンライン仏事の導入事例とインターネット活用の可能性についてお話いただきました。

菅原師からは、インターネットが佛寺にもたらす情報発信力や親しみやすさの向上について、解説いただきました。

LINEを活用すると、スマートフォンのカメラ機能でオンライン法事が手軽にできます。また、公式LINEでご門徒とつながると、連絡内容が文字で残るため日時の確認ミスを防げるうえ、若い家族層とのつながりや次世代への橋渡しにも期待できます。公式LINEは無料プランも利用可能とのこと。さらに、X(旧Twitter)、Instagram、

YouTubeなどは、情報発信に有効です。

兜坂師からは、バリアフリー化の手段としてのオンライン仏事について、解説いただきました。

ご自坊において、さまざまな制約で参拝できない人のために、オンライン化を進めておられます。本堂では機器を有線でつなぎ、安定した通信と映像を確保。複数のコンパクトデジタルカメラとスイッチャーを設置し、ご自身で映像操作できるよう工夫されています。

お二人からは、インターネットの活用は寺院の広報活動において非常に重要であり、ウェブサイトの存在も重要であると指摘されました。

その一方で、オンラインはあくまでも「お参りが難しい方々への選択肢

の一つ」として利用し、従来通りの広報手段や対面でのお参りも維持する配慮が必要であると締めくくられました。

参加人数は8名。参加者からは、「今回の研修で必要な機器や設置例が具体的に理解できた」、などの声が寄せられました。



### オフィスの身近な応援団!

For the best service company.

**MiC 株式会社 ミック**

本社 〒690-0826 松江市学園南2-10-14タイムプラザビル1F

TEL 0852-27-0329 FAX 0852-27-0376

支店/出雲・雲南・大田・浜田・益田・山口

<https://www.mic-ltd.co.jp>

印刷と出版でできること。

編集・デザイン・印刷・出版のプロとして

様々なソリューションを提供する。

人と向き合い、地域と向き合い一緒になってつくること。

それが私たちにできる、地域貢献のカタチだと考えています。



お客様の良き相談相手になることを目指します

**株式会社谷口印刷**

ハーベスト出版





# 寺族婦人会連盟・仏教婦人会連盟

## 合同研修会

期 日 10月8日(水)  
会 場 ビッグハート出雲  
参加者 184名

10月8日、出雲市のビッグハート出雲白のホールを会場に、寺族婦人会連盟の「寺族婦人研修会」と仏教婦人会連盟の「実践運動(御同朋の社会をめざす運動)研修会」を合同

にて開催いたしました。

より多くの方にご参加いただきたいの思いから、このたびは寺族婦人会連盟・仏教婦人会連盟合同での研修会といたしました。

研修会は、戦後80年という節目の年でありましたので、日本で唯一の地上戦が行われた沖縄での悲惨な戦闘について、これまであまり知られ

ていなかった当時の状況が克明に描かれた映画「ドキュメンタリー沖縄戦―知られざる悲しみの記憶―」を上映いたしました。

沖縄戦体験者の証言や専門家による解説を交え、当時の映像や実際の現場を目の当たりにして、その戦争がいかに悲惨なものであったのか、当時の日本の教育はどのようなものであったのか知ることができた研修会となりました。

DVDをお貸しすることもできますので、各組の研修会やお寺で上映したいというお声がありましたら、教務所までお尋ねください。

おります。気軽にお問い合わせください。

## 仏前結婚式

10月11日(土)、山陰教堂の本堂において、仏前結婚式が執り行われました。

新郎は盛田康介さん、新婦は坂原恵さん。新婦の恵さんは、備後教区三次組東光坊のお生まれで、松江にご在住ということもあり、山陰教堂で挙式されました。

晨利信 主管が司婚を務め、両家のご家族・ご親族の列席のもと、新郎新婦が山陰教堂の仏前にて夫婦としての誓いを立てられました。

新郎新婦からは、「本堂の荘厳な雰囲気良かった。司婚者の法話に心を打たれた。」とのコメントをいただきました。

とても和やかで心温まる結婚式でした。

山陰教堂では、仏前結婚式のご相談・受け付けをして



この度は、誠におめでとうございます。

## つぶやき職員

ここ数年、電子書籍が普及し、紙の本を読むことが少なくなりました。以前は紙をめくる感覚や棚にずらつと並んでいるのを眺めることが好きでしたが、性格上なかなか手放すこともできず、増えるばかりで保管場所や引越しの際は困っていました。

電子書籍はスマートフォンがあればいつでもどこでも買うことも読むこともでき、場所をとらないためとても便利で、一度電子で読み始めると紙にはなかなか戻れません。ただ、何年も続いていた雑誌が休刊になるなど、出版業界の残念なニュースを目にすると悲しくも思います。とはいえ、電子書籍は出版にかかるコストが低いため、電子でのみ販売をしている場合もあり、紙では出合うことのできない作品があるのも魅力です。またSNSなどで無料で公開している場合もあり、人気となれば書籍販売がされ、続編や書きおろしが読めるというの作品を応援したくなる、新しい楽しみ方かなと思います。

電子書籍と紙の本、それぞれにメリット・デメリットがあり、どちらだけが良いということはありません。自分に合った本の持ち方が選べるようになったのだと思います。私は今後も本は電子書籍と紙の両方で楽しみたいと思います。(F・M)



## 連研のための研究会

出雲南組

専正寺

禿かむろ義よし  
一かず

10月14日(火)、山陰教堂教化センター研修室において、藤丸 智雄師(兵庫教区岡山南組 源照寺)を迎えて「連研のための研究会」が行われました。

10時から16時近くまで、昼食を挟んで「教区の現状と問題点」「組の現状と問題点」「門徒推進員の活動状況」について担当者による発表の後、テーマ「連研ノートE「改訂版」問5【お浄土とは何ですか。】サブテーマ【「お浄土は私の今の生活とどのような関係があるのですか。】を故内藤 知康 和上の本の内容を用いて藤丸 師に問題提起していただき、さらに①「死者を再生(VR)できるとしたら」、②「皆さんにとっての情的アプローチ」というサブテーマをいただき午前中は終わりました。昼食後は参加者25名を3班に分けて分科会が行われました。テーマ、サブテーマをもとに約60分間の話し合いの中で、死者の再生(VR)から始まり、自分たちの情的アプローチについてたくさん意見が述べられました。私も死者が再生(VR)できるとしたら、再び会える喜び嬉しさが頭

の中に出てきました。しかし、亡くなった人たちを全て再生したいと思っているかは個人個人違うのではないでしょうか、亡くなり骨になり現世で遇うことができないから家族、親戚、友達、多くの有縁の人々と思いを語り偲ぶことができるのではないかと思います。僧侶として仏さまに導かれる私たちは、お浄土を理解して生活していると思います。しかし、ご門徒の皆さまは再生すること、そこに執着が生まれ、生死がごっちゃになり、思い人が亡くなった苦しみ悲しみがあったにも関わらず、再生したものを消去する際に迷い、苦しみ、悲しむことがまたきてしまう現実があるのではないのでしょうか。そのような方を私たちは正しい方向に導いていかなければなら

ないと痛感しました。

僧侶になって9年目、住職として7年目の私ですが、この研修会をとおして多くの先輩方の意見を聞くことで自分の勉強不足を実感しました。これからも多くの人とともに歩む存在として精進しなければならなと思います。

この研修会を通じて、自分にとって実りあるご縁をいただきました。ありがとうございます。

2025(令和7)年  
本願寺山陰教堂報恩講

10月21日(火)、本願寺山陰教堂の報恩講をお勤めいたしました。

午前の法要は「新制御本典作法」午後の法要は「正信念仏偈作法(第2種)」。結衆として出雲南組と益田組のご法中に、奏楽員として雅龍会の皆さまにご出勤いただきました。

また、オンライン担当の皆さまにご協力いただき、法要の様子をインターネットでライブ配信しました。

ご講師は、本願寺派布教使 那須英信師(備後教区沼隈南組善正寺住職)。ご参拝の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。

皆さま、ようこそお参りくださいました。





## ドレミファ組

## 千須賀組 実践運動の取り組み

千須賀組

永照寺

吉川

恭

千須賀組における実践運動の歩みは、活発とはいえない。その現状報告です。

組連研を休止してから停滞、僧侶同朋研修、仏婦並びに総代研修を継続しているのみです。

組内15ヶ寺中、寺族不在や地元不住寺院が3分の1に。僧侶とともに実践運動を推進してきた仏教婦人会、その実質活動組織率は8割弱から2割になりました。

特に、重点プロジェクトの中心となる「子どもたちを育むために」の取り組みとほとけの子の育成を、今まで仏婦に頼ってきたにもかかわらず、今後は別の方法、アプローチが必要と考えています。

1ヶ寺でも活動できる寺院に助成しながら広い範囲への呼びかけ、そして学びの一步として「子どもの権利条約」の基本的な考え方について今年度は理解を深める研修を予定しています。

僧侶同朋研修においては、講師を招いての研修だけでなく、実際に現

地に出向き、交流会を含めての学びを大切にしてきました。過去には岡山、国立療養所、長島愛生園、広島平和記念資料館、昨年は広島朝鮮小、高級学校を訪ね貴重な時間と学びになりました。

長島愛生園では、真宗同朋会のハッセン病回復者の皆さんと車座になった交流(当時)、私自身はその後も行きましたが、知らないことばかり、愕然としました。

また昨年度は、朝鮮学校での授業見学を2時限行い、校長先生から1時間お話を聞かせて頂きました。現在朝鮮学校を取り巻く社会的環境はヘイトスピーチや「高校無償化」制度からの排除、補助金支給の停止と非常に厳しさが増している状況です。

朝鮮学校での授業はハンゲル(高校は日本語)、日本と同等のカリキュラムに、プラス民族教育がされていました。しかしながら、法的地位は「各種学校」としての位置づけです。

在日朝鮮・韓国人は地域住民としての一般住民同様、納税義務など

種々の義務をはたしているにもかかわらず、その子どもたちの教育には、国及び地方自治体によって排除、停止と対応の対処がなされていない現状であると。

行政へ何度も見学を要請しても、それすら拒否して対応してもらえないとのことでした。

今年度は「障がい者差別の現状について」の研修を予定しています。

報道では、文部科学省の学校基本調査で大学進学率などに使用される18歳人口の集計から、障がいのある児童、生徒が通う特別支援学校の卒業者が除外されているとありました。見学もなされていないともありました。

特別支援学校を卒業して就職、原発問題等積極的に発信・行動している方を招き、現状と問題点、その声を聞き学びます。

これからも象牙の塔にこもることないようにと、私も一年ぶりに能登へ行きます。



## 「平和の鐘」

9月18日(木)、第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において修行されました。宗門では恒久平和の願いを新たにすするため、毎年、この法要にあわせて「平和の鐘」を撞いています。当日は、

山陰教区内寺院82ヶ寺でも梵鐘や喚鐘が撞かれ、共に平和への誓いを新たにしました。



慶讃法要記念  
川勝オリジナル

(経本入・式章袋・念珠袋)

親鸞聖人御誕生 850年  
立教開宗 800年



御本山用達

株式会社

川勝法衣店

〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入

TEL.075-371-0367(代)  
FAX.075-371-5088



## 門徒総代会研修会

10月28日（火）、門徒総代会研修会をビッグハート出雲にて開催しました。教区内寺院の門徒総代会を対象とし、北島清秀師（神門組 乗光寺住職）を講師に迎え、「願われているいのち」をテーマにご法話をいただきました。

冒頭に、本願寺出版社から発行されている冊子『門徒総代として』を引用しながら、お寺の護持発展と運営に参画するとともに、ご門徒を代表して積極的に聴聞を重ね、一人でも多くの方が聴聞できる環境を作ることこそが、総代の最も重要な役割であると強調されました。

講演の中心テーマは、私たちが阿弥陀さまに「願われているいのち」であるという浄土真宗の教えでした。浄土真宗のみ教えは、阿弥陀さまとともにあゆむ日々を喜びとしていただくことであり、私たちが称えるお念仏は、「必ず救う、我に任せよ」という慈愛に満ちた阿弥陀さまのおよび声そのものであると説かれました。このおよび声をそのまま聞いて疑わないことを「信心」と言います。ご講師からは、私たちの物の見方

がいかに自分を中心としたものであるかを、事例を挙げながら示唆されました。そのうえで、日頃称えるお念仏は、阿弥陀さまが「放っておけない」と願ってくださっている証であるとされました。

また、ウイスキーの製造過程におけるブレンドの例をとおして、お寺の運営に言及されました。ブレンドドウイスキーは、繊細な原酒だけでなく、時にはちよつと変わった味や異なるお酒を少量加えることで、ぐつと深みや奥行きのある味になります。お寺の運営においても、多様な個性や、自分と異なる意見も必要であり、総代は「お寺社会のブレンド」としてその働きを発揮することが期待されると結ばれました。



### 連載第2回

## 仏法とともにくすべての人とつながるためにく

実践運動オンライン担当

担当長

兜坂彰英

今回からは具体的にどのようなことに取り組むことができるのかお話をしていきます。

### お寺にとつてのホームページの重要性

私たちは今、パソコンやスマートフォンでの情報検索が欠かせない時代に生きています。知らない土地で地図を調べ、ホテルや飲食店を探すのは当たり前になりました。現地に着いてからもナビを使い、お店を検索します。本当に便利な世の中です。

しかし、もし検索しても情報が出てこないホテルや飲食店があったらどうでしょうか。それは、インターネットで探す人々にとつて「存在を確認できない場所」、つまり「ないの」と一緒になってしまっています。

この現実はお寺を探している方々にとつても同じです。引越いや分家などで新たにお寺を探している方。こうした方々が情報を求めている時、お寺の情報がインターネット上にあることは、双方にとつて計り知れないメリットをもたらします。

かつて社会を震撼させた事件の元

信者の方が残した「寺は風景でしかなかった」という言葉は、私たちに重い問題を投げかけました。この言葉は、当時すでにお寺からの積極的な情報発信、すなわち広報活動の重要性が問われていたことを示しています。

お寺の広報活動は、単なる宣伝ではありません。それは大切な「伝道活動」そのものであり、み教えをいただく私たちが、どのように社会活動を通して歩んでいるかを伝える、大切な活動なのです。

今こそ、元信者の方が残された言葉を真摯に受け止め、ホームページの作成をはじめとする、たくさんの方々のチャネル（手段）を持って、広報活動に力を入れていく必要があるのではないのでしょうか。

今回は具体的なホームページの作成についてお話をいたします。

オンライン担当では担当者を募集しています。切磋琢磨しながらお寺とデジタル技術について学びを深めませんか？ 初心者歓迎。教務所までご連絡ください。





去る、10月12日(日)に「神門組仏教壮年会連盟結成40周年記念大会」を出雲市のラピタウェディングパレスにて、168名の参加のもと執り行いました。

記念式典は、厳かな雰囲気の中、正蓮寺・日溪浩道住職の勤行「讃仏偈」、続いて「仏教壮年会連盟綱領」の唱和が行われ幕が閉まりました。

冒頭、須山宏幸 実行委員長の挨拶では、結成から40年間支えてくださった諸先輩方への感謝、今後の活動への抱負、本大会が開催

できたことへの関係者へのお礼が述べられました。

また、来賓としてお招きしました、晨利信 教務所長、鈴木二郎 組長から祝辞を頂戴し、式典に華を添えていただきました。

その後、歴代理事長の本田和政様、井上静夫様、天野明浩様、



伊藤貴博様へ今日までの功績に敬意を表し、感謝状の贈呈を行いました。

記念講演では、宗派仏教壮年会連盟・種村美樹 理事長(東海教区員弁組 源光寺門徒)から、「仏教の意義とこれからの方向性や取り組み」の演題のもと、ご講演い

ただきました。会員を増やすための方策とその必要性についてわかりやすくご教授くださいました。

祝賀会では、会員同志が40年を振り返りながら、お酒を酌み交わし、和やかな雰囲気の中で懇親を深めることができました。

最後に、本大会を開催するにあたり、各寺院から実行委員として会員並びにご住職にお出かけいただき、計5回の実行委員会を重ね、無事開催することができました。あらためて、感謝申しあげます。

### 退職のごあいさつ

松江組 眞光寺 吉田 剛

臨時職員としての契約が満了し、11月に退職させていただくこととなりました。

教区にかかわる一人ひとりのことを考えながら仕事に向き合う先輩職員の姿に接して、まさに「水道管」や「木の根」のように、見えないところで運営を支えてくださっている教務所であるということを学びました。

今後は異なった立場で、微力ながらも教区を支えて参りたいと思います。

大変お世話になりました。合掌

## 編集後記

令和7年の報恩講の参り合いも一通り終わりました。組内には30数か寺があり、毎年、報恩講の日程一覧が配布されます。

今年はその一覧を眺めているうちに、すべてをGoogleカレンダーに入力してみようと思い立ちました。実際に入力してみると、10月から12月上旬までという日程の広がり、予想以上に明確に見えてきました。また、報恩講が多多い日は11月3日、次いで11月1日であることなど、改めて知ることとなりました。

さらに面白くなり、市報に掲載されている行事や文化祭なども入力してみると、11月はとりわけ行事が多く、ほぼ毎日予定が入っている一方で、わずかに「何もない日」が2日だけあることにも気づきました。

ただ、すべてを通知設定にしていたため、携帯が毎日のように知らせてくれる結果となりました。入力自体は良いのですが、そこまで通知させる必要はなかったようです。

(S・A)